

第2回 意見交換会 要旨

開催日時	10月 2日(火) 19時00～21時00		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

資料の配付 (前回の記録は県で用意)

豊科建設事務所のかたから資料についての説明

1. 20年後のA、B、C、各ルートの利用台数予測の根拠となる資料。
2. 平成32年の交通量推計では、大町以北は検討していない。
3. 各想定ルートをシュミレートして算出された費用と効果に関するデータは、現在概要版としてまとめているところ。近々資料として出したい。
4. 道路の渋滞による経済損失を計量したデータ。新聞の記事の切り抜き。
5. 塩の道経済懇談会、期成同盟会の構成員。
6. バブル期と現在の経済状況におけるこの道路建設の妥当性。
7. 将来の予測データ (少子化高齢化に関わる)
8. 予想される高齢化社会に対応した交通システムのあり方に関する見解 (長野県第2次中期総合計画、長野県新交通ビジョン平成9年版)

県への要望

1. 町長や議員の意見交換会への参加 (町長は公務と重ならなければ要請があれば参加、議員は議会の議員としてではなく個人としてなら出ても良い? 議会と調整中ではまだはっきりしない)
2. 他の地域との意見交換会の設定 (他の地域の交換会の意見を見たあとに検討)

資料の6について県から説明: 道路は地域経済発展の基盤、地域住民の生活基盤として重要な役割をはたしている。社会資本としての道路整備というものは長期的視野にたって必要。

・回答は一般論で個別の問題への回答になっていない。道路が必要だということは誰もがわかっている。長期的に考えて道路整備を行政が行わなくてはいけないのは当たり前の話。これから行おうとしている道路建設が、現状に合わせて必要かという具体的な個々の例についての問題。

A: 今までの建設を前提とした考え方ではなくゼロベース、一旦原点に立ち返って。

第2回 意見交換会 要旨

開催日時	10月 2日(火) 19時00～21時00		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

資料の説明についての質疑を行う

- ・ A、B、Cのルートに書かれている平成32年の車の予測台数について説明してもらいたい。
A：松系線だけを絞り出したもの。すべての交通量予測から平成6年度の交通量調査を元にして安曇野の南北の主な道路の交通量を予測して絞っている。例えば長野道から豊科インターで降りたクルマが北へ向かう、その交通量が増えてデータに反映されるといった具合。
- ・ 波田から梓川の間で20900台、この車はどこから来るものなのか。
A：松本方面から梓橋に出てくるなど、色々なところから来る。
- ・ どこから出発したクルマなのか。
A：交通量は、その時点での交通量。
- ・ クルマはそこで湧いて出るわけではない。どこから来るのを想定しているのか。
・ どのナンバーなのかということ。
A：軽自動車とか、普通乗用車とか押している人はそのぐらいしか出来ない。
- ・ この辺でぐるぐるまわっているクルマなのか。
・ 5本も道路があっただけで。もう道路は必要ないということ。
A：OD調査を行っていて、その結果を加味している。
- ・ 将来予測として、どんなデータを入力したのか出されていない。求めたのは結果ではなく、どういう調査をいつどのようにして行って、その結果この数字が出たのかを知りたい。人口動態予測や経済予測など様々な根拠となっているデータを知りたい。
- ・ 例えば平成32年には人口が減ることが予想されているのに、平成6年に予測した段階では人口が増えるように予測しているかもしれない。
- ・ 経済状況についてもバブル期の予測と現在の予測とはずいぶん違って来る。どういった数字を入れたのかを知りたい。
- ・ 平成6年には根拠があったかもしれないが今はバブルが破綻して根拠が無い。
- ・ 頭を切り替えたほうがいい、あなた達は誰に雇われているか考えたほうがいい。
A：予測に対するインプットデータが必要だということですね。

第2回 意見交換会 要旨

開催日時	10月 2日(火) 19時00～21時00		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

- ・ Aルート、Bルート、Cルートでずいぶん数字が違う。クルマは同じところから来るはずなのに、どうしてこんなに違うのか。
- ・ ここに加味していない数字もあるはず。何を加味していないのかも必要。
- ・ 頭をゼロにリセットして欲しい。ゼロになっていない。(職員の人に) みんな一緒に話をしましょうよ。
- ・ 今、現時点で走ってみて、どうみても混んでいる感じがしない。山麓線はあくまでも147号のバイパスでしかない。平成32年までの20年間にこれだけ発展するんだという希望的観測が多分に入っている。全然、当てにならない。
- ・ 既存の道路の交通量を予測したネットワークとしてのデータを出したらどうか。
- ・ この数字の客観的な妥当性に疑問がある。だから、この数字の根拠を知りたかった。
- ・ 9月30日の市民タイムズに載っていたが、大町から北は欲しがっている。穂高から南はいらないといっている。県はこんなものを造ってもダメ。みんな東京を向いている。大町から北を安全にしてやる必要がある。平成16年には長野県の予算が組めないといっている。長野県が道路を造るのなら2/3は長野県が出さなくてははいけない。もうパブルは来ない、弱くなるだけ。負担分は債券を発行しなくてははいけなくなる。国道なら1/3が長野県負担。大町以北をきれいにしてやる。松本の周りはいらない。
- ・ 交通量の調査をしているところを何度も通る。よそには出ていかない。高速道路は使わない。
- ・ プログラムでいくらでも都合の良い数字が出てくるということ。
- ・ (大町以南の人口が増える予測から道路を南から造る、ということに対して) 人口が増えるところがあるのなら、減るところもあるでしょう。それはどこですか? の答えが出ていない。
- ・ 何でもプラスで予測している。日本の人口は2億人ぐらいになってしまう。みんな積算。論理は飛躍して破綻している。頭の中を切り替えて欲しいから言っている。

論議へ

- ・ 前回、大町よりも北には必要ではないかという意見が出されたので、それについてと、ただ反対というだけではなく、今実際の生活の中で何が問題かということも具体的に出してもらいながら、それらを解決していくにはどうしたらいいかということについて論議を進めたい。
- ・ いらないという意見だが、いるという意見もある。
土曜日に糸魚川に行ってきた。小谷の方は冬に舗装が削られる。その補修工事のために待たされる。大宮ナンバーなどの他県の業者が大きな機械を持って来て舗装の仕事をしている。地元にお金が落ちないで、ああいうところに行ってしまう。全然クルマはいないけれど、人が歩くところが無いから危険。高規格を造って欲しいなどとはとんでもない話。人が歩けるような部分が必要。新たな道路を造るのではなく、既存の道路の改良が必要。道路が必要という意味で。
- ・ 舗装が11加減。もっときちんと舗装をすれば、そんなに掘り返さなくても良くなる。しっかりと道路を造ってあげばよい。
- ・ 工事で5分ぐらい待たされたことはあっても、全体的には引っ掛かって不便と言うことはない。生活道路がないから危険だからきちんとやって欲しい。

第2回 意見交換会 要旨

開催日時	10月 2日(火) 19時00～21時00		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

- ・小谷に住んでいる人から話を聞いた。こちらにいと、向こうの生活状況は良くわからない。夏は広い道だけれど、冬になって雪が降って除雪をすると脇に積み重なって道が狭くなる。スキーのシーズンになれば渋滞になり救急車も行かなくなる。だから道はもう1本あっても良いという意見もある。今はこういった時代だからヘリを使ったらどうかという声もある。道を何本もあけるよりも、救急医療ということなら大町にいい病院を造ってそこに搬送すればよい。考えているよりも道は歩道も危なっかしいし、白馬、小谷ぐらいまでの間が渋滞するらしい。
- ・小谷は、北陸方面から長野方面に向かう車が多くなって家の近くを通るのでうるさい、白馬方面は歩くのが危ない、スキー客に来てもらうために欲しい、大町は観光や工場誘致などのために欲しいと言っている。大町以北については交通量の面からも必要ないと思っているが、歩道を道路の除雪をしても通れるくらい広くするとか、路肩を広くとって緊急時に救急車両が通れるように準備しておく。南小谷付近が事故が多かったのでバイパスを造る。渋滞時にはクロスカントリーコースの方に誘導する。トラックなどもそちらを通すようにして小学校の方の交通量を減らす。道路のネットワークの工夫で国道の改良で対処できる。その際に、中央分離帯などを設けるとか信号ではなくて立体交差ではなくするなど、地域高規格道路ではなくても国から1/2の補助金が出てくるような地域の人が満足できるような道路づくりでも良いのではないか。
- ・細かい問題よりも道路計画に則した形で北側が必要かどうか発想するためには、県が示している災害の問題と医療の問題、オリンピック以降大型トラックが増えて雨中地区で事故が発生している、そういったことが問題と絞っていける。災害の問題で県はずっと欲しいと言ってきた。実際小谷の方からも、もう一本欲しいと言ってきた、医療のことも、事故、渋滞にしばって。
- ・医療のことで、松本系魚川連絡道路を造っても、あまり時間の短縮にはならない。松本の信大病院とか豊科の日赤とかを考えていると思うが、渋滞しているのは、例えば信大病院ならば病院の周り。医療のことならば、ヘリを常備するとか、新潟の大きな病院に連れて行くとか。
- ・この高規格道路は1kmあたりいくらでしたか？(30億から50億)大規模病院を造るのにいくらかかるのでしょうか。雪が降って状態の悪いときに、松本とか新潟とか言わなくても小谷とかに大きな病院を造ればよい。病院を造る方が先だと思います。
- ・病院を造っても医者が行かなくて困るのではないか。過疎に病院が無いのは、医者が行けない、生活できない、行きたがらない。簡単に病院を造れと言っても難しい。
- ・これからの地球規模で考えると、だんだんとそういった意識は無くなっていくのではないか。
- ・医療の問題は渋滞とリンクしている。渋滞があるために救急搬送が難しい。
- ・ところが渋滞の箇所は、今問題にしている地域ではなくて松本の病院の近くである。
- ・渋滞が解消されれば問題が無い。
- ・救急ヘリを使えば良い。どこの集落で急患が発生した場合にはどこからヘリが飛んでどこに運んだら良いかプランニングされているはず。
- ・僻地だけの緊急医療体制で行われている。
- ・県だけでなく、民間のヘリを使ったらよいのではないか。道路建設にかかる金額を考えたら、1時間何10万のヘリをチャーターする位の予算は十分に採れるはず。

第2回 意見交換会 要旨

開催日時	10月 2日(火) 19時00～21時00		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

- ・病院建設については道路建設よりも安いだろうけれど、松本系魚川連絡道路の場合には国の補助事業で1/2が国から出る。病院の場合にはそれがわからない。建物が出来ても医者の問題がある。
- ・病院を建てることは賛成。現実にはそれをやっていると過疎のところはますます過疎になる。きちんとした病院を造れば、外国にまで行くお医者さんがいるのだから来てくれる。病院を造れば雇用を増やすことも出来る。道路を造るだけでなく、将来のことも考えてやっていただきたい。
- ・意見交換会は私達は専門家ではないのでこうすべきだと結論が出せるわけではないが、こうだったら良いのではないかと問い掛けを県のほうに提案していけたら良いのではないかと思う。

- ・白馬から北小谷、系魚川、もしこういった道路を造るとすればトンネルということになるのでしょうか？

A：現状の地形等を考えると、すぐ切り立った山という構造上、多くがトンネルになる。

- ・本質が違う。私も談合ばかりやっていたからわかる。お金がどう流れるかによって計画が決まる。病院じゃあお金が入らないが、道路を造れば土木工事だから。田んぼを売りたい人とかいるわけ。世の中はみんな利害。お金がどう流れて誰に入るかで世の中成り立っているのだから。公共事業は全部談合ですよ。Aコースに決まるとメーカーがどこなのか決まってしまう。その時に一生懸命促進した所に仕事来る。本質的なことを抜きにしていくら話しあったとしてもしょうがない。21世紀の頭に切り替えてくださいと言いたい。談合の仕組みを説明していただくと良くわかる。病院が11か、道路が11か、どちらもいります。結局はお金の流れの問題。
- ・病院の問題については地域医療をどうあるべきかという問題で、今でも小谷の人は安曇病院まで来る人が多い。道路計画のあるなしに関わらず、病院は白馬なり小谷に必要だろうと。その投げかけとさせていただきたい。
- ・渋滞の問題と災害の問題が残っている。道路工事によるものではなく構造上の問題で、渋滞の発生箇所はどの辺りでしょうか？建設理由として渋滞の解消は出ていましたが。
- ・混雑度が1を超えるものは道路に対する車の台数が多いということ。例えば、穂高町の国道147号とか。

- ・いつの時点の調査ですか？

A：平成6年です。

- ・オリンピックの前でオリンピック道路も他の道路も出来ていないころ。今とだいぶ違いますよね。今はおそらく1を割っていますよ。おそらく、ずっと少なくなっていると思うんですよね。
- ・7年前のデータ。

A：オリンピックによってかなり改善された。それ以降、どういった問題が残っているのか調査されていると思うのだが、早急に開示しなくてはいいけないと思う。

第2回 意見交換会 要旨

開催日時	10月 2日(火) 19時00～21時00		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

- ・松本系魚川連絡道路が出来るほうがずっと後になるので、それまで問題を放置しておくとも思えない。改善策を。
- ・トラックの通行が増えてきたと言われているが、いつごろから増え始めたのか、トラックが何故こちらを通るようになったのか？道が良くなったからなのか、それとも経済状況が厳しくて各企業でコスト切り詰めのために高速道路を使わずに通るようになったのか、その辺が良くわからないので教えて欲しい。
- ・オリンピック道路が出来てから東京から白馬に行く時に長野を経由した方が便利になった。北陸からのトラックも白馬を経由して国道18号に出ているのではないかな。

・と言うことは道が良くなった、便利になったと言うことですね。

A：便利になるように道は造るものですから。

- ・オリンピック以降に変化があった。長野と白馬を結ぶオリンピック道路、中条村の有料のトンネルを迂回するように大型車が通る。そういった現状で、小谷は早急に解決しなくてはいけない問題と把握しているだろう。小谷村のほうとして、この道路(松系線)の完成を待つのではなく、早急にどういう手を打つことが出来るか検討しているだろう。県の立場から村に対してどのようにできるか、小谷村の意見交換会でもその様なことが出て、小谷村としてこの道路計画とは切り離れた問題として、松本系魚川連絡道路とは別の問題で既存の道路をどのように改良していくかということ。
- ・白馬村の方では観光客の60%程度が長野経由で入ってくるという報道があるが、県のほうでは流れの変化は把握しているか。
- ・オリンピック後かなり流れが変わって、それに伴って新たな問題が発生している。
- ・松本系魚川連絡道路は大町以北には必要なんだという意見が前回にあったので、今回話し合いにしたのだが、今までの論議からいけば、この道路計画の問題から切り離して現在ある道路の問題として捉えていける。
- ・災害のことで、国土交通省の高田工事事務所に行ってきたことがあるのですが、平成7年の豪雨災害のあとで、今工事している小谷道路の設計を見直して、同様の災害が起きても大丈夫なように国道148号線の設計を見直したといていた。あれは相当大きい災害、集中豪雨だったと思うのですが、あの程度の雨があっても国道148号線は大丈夫と考えてもいいということ。問題なのは国道から枝葉のように入っている小谷の集落を結ぶ道を村とかが整備することではないか。
- ・一方で、148号、南北に延びている一本しかない道が寸断されたのだが、そこに出て行く生活道路がもろいのではないかな。災害のときに山の上の方に通っている迂回道路は残っていた。崩落しないのは上の方なのだが、問題は冬期に通れない。道路は、むしろ山間の集落の問題が先ではないか。道路とは直接関係ないかもしれないが、県として考えて欲しい。実際地図を見ながら、自分たちの持っている情報から自分たちに気持ちを含めて。

・他の地域のものも含めてオープンになるのはいつですか？

A：公開できるものは順次公開していきたいと思っています。

第2回 意見交換会 要旨

開催日時	10月 2日(火) 19時00~21時00		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

・それは具体的には？

A：各建設事務所から出てきたものを発表していく。ホームページにはグループのみなさんの了解が得られれば、載せていきたい。グループから豊建に出てきているものについては、ファイリング済み。

・他の地域との意見交換は、公開されたものを見て、私達も求めるテーマを設定していきたい。

A：意見交流会は、地域が離れているから、どちらかがどちらかに行き行ってやるのか。

A：公開されたメモを見て、このグループとやりたいということとなれば、そのグループの方と。

・大町の方もそうだが、穂高の中でどのグループでなにが出たかもわからないので、そういったのも聞きたいし見たいし、もらいにいけばもらえるのか。

A：グループの参加している人の名前はどうでしょうか？消して出した方がいいのかな、と思うけど。

・名字だけだから構わないのでは？

・別に公文書公開ということではない。各グループでこれが公開されるという前提の元にファイルされるということが話があれば、そこにメンバーとして名前があるということについて当該のグループで確認すればいい。困ると言う人がいれば、6グループの場合は、みなさんこれはグループの構成員の名前だけだから、このグループの方々が、この意見に同意しているということではなく、こういう意見が出たということだけだから。交流というものは大事なもので、これからぜひ実現することを。

・反対賛成の表面的な論議だけでなく、自分たちの生活の中で具体的にどうするかという問題について論議をすることで交通についても深めていきたい。松本糸魚川連絡道路の計画について一旦は棚上げするつもりでも良いと思う。普段、生活の中でここが問題だということをお知らせしてほしい。

・農業が成り立たない。後を継ぐ若者がいない。農地を売りたい人はいっぱいいる。農業の傍ら土建会社に勤めている人は大勢いる。そういった人にとっては切実な問題。道路でも何でもお金が流れてほしいということが現実の問題としてある。それをくみ取って、我々が少しでも成り立つように考えないと、とんでもない道路建設なんて話になってしまう。国や行政がそれを取り上げるとわかりやすい(補助が出る)ものだからお金がもらえる。これからはもうお金は来ないのだから地域で自立していかなければしょうがない。これでAコースに決まったら、うちの田んぼは買ってくれるのかと部落でけんかになる。だから早く道を決めてください。ここでやりたいとはっきり決めてくれたら、地域でもめっちゃうんだから。みんなで支え合うのが社会。我々安曇野だけでもちゃんとやっていかないと。こんな問題があるとおかしくなるだけ。農家の人の生活をみんなで考えないといけな。土建会社にはバックホーなんかいっぱい余っている。そういう風に考えていかないと根本の議論が成り立たない。

第2回 意見交換会 要旨

開催日時	10月 2日(火) 19時00～21時00		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

- ・それほど農業の後継者がいないと言われると 。そんなこともない。それほど悲観しないでいただきたい。ものを造ったら、所有者が維持管理をしっかりとる。それが出来ないのだったらものは造らないほうが良い。現状で、町道にしる県道にしる国道にしるそれぞれの管理責任者がきちんと管理しているかといえば、決してそうではないと思う。何故このようになっているのか不思議に思う。田舎の道路には法面があり、法面に続いて水田や畑がある。昔は草を刈って馬にやればいい。ほとんどの場合、法面に面している農家が管理している。時代は変わったのに、何故、無料奉仕をしなくてはいけないのか？ 土建業者が道路の法面の草刈りをやれば有料で結構な金額をとっているようだが、土建業者がやればお金がもらえて、農家がやればお金がもらえない。農家は黙っている。この辺がどうしてもおかしい。今の稲作の作業の中で一番大変なのは畦さらい。稲刈りをするのは一反歩あたり機械があれば15分から30分。水田の傾斜地の草刈りは、年間3回。一反歩あたり大体30分から40分。こういう一番大変なことを農家に押し付けて過ごしてきている。これからはそのように過ごしてほしくない。都会に住む人は、それぞれの地方自治体の財産を管理するという感覚は無いが、田舎では、ことに昔から住んでいる農家の人に押し付けられている。こういう現状は直してもらわないとますます農家は苦しくなる。道路管理の大きな問題点である。
- ・行政がやるべき点を農家が無料奉仕をせざるを得ないということが問題。
- ・道路沿いの水田にものを投げ込まれる。コンバインに堅いものが絡むと一回の修理費に何万円というお金がかかる。いつの秋でもそういった事例が起こる。高速道路で音がうるさいという防音壁が造られるが、農家の場合は一も認めてもらえない。百姓が嫌になるのはほんのささいなこと。そういったことに誰も気を遣ってくれない。細かいことだけれど、そういう農家がみんな困っていることに誰も心配してくれない。だから誇りを持ってなくなって嫌になって、土地を売りたい。この辺の農家の人たちを代弁して言えばそういったこと。以上の2点は考えてもらいたいこと。現状にあるものもちゃんと管理できないのだから次の段階にはいってほしくない。
- ・現在の道路、あるところは広くてあるところは狭い、歩道があつたりなかったり、ということを考えてほしい。新しい道路を造るよりも改善が先ではないか。渋滞はほとんどないが、時々交差点で止められる。右折レーンがないことが原因。交差点の右折対策を考えてほしい。地元も業者も潤うし、あまりお金も要らないと思う。山麓線には歩道がない。少なくとも歩道がほしい。非常に危険です。
- ・松本の周りには、特に右折がしにくいところがあるが、みんなで考えて、次から次へと入れてやるとか、そういう方法も考える必要がある。
- ・1つのレーンを狭めても右折レーンを造ってほしい。土地が買収できるのならこの際ロータリーを考える。イギリスのロータリーは非常に良く出来ている。もちろん横断歩道は交差点から離してやる。
- ・田沢駅前の左折が混むのは、直ぐ脇に横断歩道があるから。

第2回 意見交換会 要旨

開催日時	10月 2日(火) 19時00～21時00		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

- ・ 十字路があって曲がるクルマがあると詰まる。そこだけ逃れるように広げれば良いのだが、一等地だから立ち退かない。立ち退く、立ち退かないというのは非常に重要な問題。例えばAコースは、我々の家にかかってくる。立ち退かせるということだけけれど、立ち退かないと道路は出来ない。立ち退かせられるか？渋滞の対策も一緒。ダムで考えてみれば、水害の起きそうなところの家を立ち退かせれば解決。ダムなんかいない。でも、立ち退かせられない。環七環八も20年、30年でやっと。一軒残るために通れなかったり。オリンピックがあるということで強制的にやったからできた。すみやかに協力して、みんなが合意しないと解決しない。行政の人も大変。一軒どかすためにどれほど苦労しているか。毎日毎日通って。
- ・ 歩道があまりにもなさすぎる。歩道があってもバタバタしていて真直ぐに自転車に乗れない。楽しく自転車に乗りたいと思って来ているのに、乗ることも出来ない。山麓線は最近、朝などすごいスピードで猛烈な通勤ラッシュで散歩したくても歩道がないと怖くて歩けない。せっかく来た観光客が不安を感じるような穂高町にしたいくない。しゃくなげ荘から東に向かう道も危ない。何とかしてほしい。
- ・ 歩道のこと、歩行者の安全のこと。通学での子供の事故が非常に多い。子供が1年生のときに、女の子が1人亡くなっている。今年の春にも4年生の子が1人亡くなっている。その間、毎年接触事故が起こっていて、骨折など。危険なところが非常に多い。PTAとかにも話を出してみたが、難しいとのことで行政に話が伝わらない雰囲気がある。通学路でこんなに事故が多いのは、学校としては放置できないはずだろう。1970年、東京都で美濃部都政の後半に交通戦争宣言が出され、集中的に、通学路をスクールゾーン化すると幅4m以上の道路はガードレールを設けて人間とクルマを分離する、こちらでは除雪の問題があるときいているが、東京ではクルマと接触するような事故は、クルマが多いにも関わらず少ない。こちらは車の台数が少ないにも関わらず、非常に事故が多く起きている。研究、町において道路には様々な死角があるので、そういったところを行政がチェックし、速やかな対策を高めることが基本だろう。県のほうでは細かいところまで目が行き届かないので、市町村レベルから始まること。県と市町村は密な連絡をとることが必要。
- ・ 夢を抱いてこちらに引っ越してきて、1つ夢が無くなった。それは、外にお酒を飲みに行けないこと。飲み屋に飲みに行くことが出来ない。こっちで暮らすということは、クルマがないとどこへも行けない。東京ではクルマを1台購入していた。でもクルマがなくても東京では生きてゆける。こちらは1台では足りなくて2台購入した。余裕のあるところでは、3台4台と、つまり1人1台という非常にある意味で非常に先進的なのがこちらの現状。何が欠けているのかということ、クルマを保有しないでも自分の行きたいところには行ける。例えば、穂高の街に出て行くのに車を運転していかなくても行ける何らかの考えていく必要があるのではないかと思います。肌で感じる生活の実感としては、非常に人が増えているなという実感がある。近所で不況だといっても結構建築が進んで引っ越してきて新たな住民が生まれるのが穂高には多いように思う。今後、穂高では穂高町に住んでいる人が保管場所として穂高町に登録するから車両が増え、道路も車両で埋まっていく。だから、どこかでこの現状を転換させていかないといけない、ターニングポイントというものがあるだろう。これ以上人口が増えていってにっちもさっちも行かなくなって、さあどうするというよりも、行政が人口が増えていくであろうという予測を出しているわけだから、むしろ、車両をどう抑制していくものかと言う点に行政の指導というものを置いていかないのではないかと。公共の機関と

第2回 意見交換会 要旨

開催日時	10月 2日(火) 19時00～21時00		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

いうものは、安曇野辺りでは具体的に構想して行って、どうやって方向転換していけるかということを描いていかななくてはいけないところに来ているのではない。これは、総転換をしなくてはいけない生活網という、道路建設課とは違う問題かもしれないが。

- ・無理ではないか。松本で行っているパーク&ライドみたいなやり方とか、もう少し電車を使う方向性とかは出来るかもしれないが。
- ・それが出来ないのが嫌だ。
- ・行政のかたに期待したい。頭を早く切り替えてください。ハードウェアではなくて、ソフトウェアを考えないといけない。
- ・大町以北は地域高規格道路として整備する必要がないと、大体みんなから意見が出たようだけれど、大町以南については良いのか。大町では造って欲しいと言っている人が多い。波田を起点にした場合は穂高を通るということで全く容認できないが、大町まで、例えば豊科から既存の堤防道路を利用して池田の方を歩いていくようなかたちを、実際に欲しいと言っている人たちのことまで頭を巡らせて、グループとして考えていくことも必要ではないか。そうでないと、穂高と大町との意見の衝突がすごく起きてしまう。それは地域のつながりということを考えたら、あまり良いことではない。穂高町では山麓線の町道の部分には歩道を付けて欲しいと思うが、例えば、現在県道25号線が新屋で止まっているが、サンクラブのほうまでつながるだけでも随分クルマの流れは変わる。松川の方までスムーズに流れるようになる。県道25号線の南の方も三郷村のところまでぶつかっているが、あれを大型バスがすれ違ってくるような道で梓川村の国道158号線の方に延びていく道と波田町の方に延びていく道が出来れば、車の流れとかネットワークが違ってくる。そういったことも、各地域から出されている要望とか考えたら想像を巡らせていっても良い事項ではないかと思う。
- ・今回出てきたことについてもっと深めていったほうが良い問題もあると思うので、次回はこれを継続することと、今回出てきた資料を家で検討して、これに基づいて新たに県のほうに聞いていくこと、意見を述べること、この3つを出しあっていく。
- ・去年各地域で行われた説明会で出された意見、要望、質問とかをまとめたものが県にはあるのでそれを資料として提供して欲しい。平成11年度に行った交通量調査の結果を地図に書き込んだものを資料として出して欲しい。
- ・白馬から長野に抜ける道路の交通量も出して欲しい。
- ・中部縦貫道の関係で、松本から波田までの道路が設計段階のはず。波田町周辺の松本系魚川連絡道路がつながる部分の設計を知りたい。具体的な工事に入っていくのが行かないのかという情報も欲しい。今後の見通しとかタイムテーブルとかあれば出して欲しい。
- ・結局、中部縦貫が出来なければ波田につなぐ意味が無い。穂高を通す意味が無いということ。

・11月の終わりごろには、穂高町の7グループが集まって、そのグループの意見の発表会をするわけですか。

A: 11月いっぱいぐらいに。

第 2 回 意見交換会 要旨

開催日時	10月 2日(火) 19時00～21時00		
市町村名	穂高町	グループ名	6
メンバー	(: 司会、 : 記録者)		

- ・意見がまとまらないときには延期してもらえるのか。
- A：中間的なまとめにするか、(打ち切るということはないですね) そういうわけにはいかないでしょう。
- ・賛成の人にももっと来ていただかないと。
- ・町長に関しては要望があれば来ても良いとのこと。議員の方は、議会の方で調整中。町長に来てもらうには、それなりの論議の積み重ねが必要。

それでは、次回は10月26日、金曜日に町民会館の第1会議室で行います。